

もくじ

■ 公共（公共 002-901）

1	学習の到達目標	2
2	科目の特色	2
3	学習の計画	3
4	評価の方法	22
	【参考】授業の進め方と学習にあたって	23

公共	単位数	2 単位 (70 時間)
	学科・学年・学級	○○科 第○学年 ○組
使用教科書、副教材等	東京書籍「公共」(公共 002 - 901)、 「公共ワークノート」(以上、東京書籍)	

1 学習の到達目標

- ① 現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄をはかることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力しあうことの大切さについての自覚などを深めます。

2 科目の特色

「公共」は、上記の科目の到達目標が達成できるよう、以下のように構成されています。

第1部「公共のとびら」では、現実社会の諸課題を見いだし、解決に向けて選択・判断の手がかりとなる考え方や「公共的な空間」における基本的原理を学習します。第1部で学んだ考え方や基本的原理は、第2部・第3部の学習で活用されるものです。

第2部「自立した主体として社会に参画する私たち」では、政治、法、経済、職業生活、国際社会の分野ごとに学習します。第2部は5章13のテーマで構成されており、各テーマは1見開きの「追究しよう」と複数の見開きの「本文ページ」で構成されています。各テーマの冒頭の「追究しよう」では、テーマに関する具体的な課題を設定して、追究したり解決したりする活動のプロセス（「つかむ」→「考える」→「話しあう」）にそって学習します。

〈13のテーマ〉

第1章 政治 民主政治と政治参加

第2章 法 法や規範の意義と役割／市民生活と私法／国民の司法参加

第3章 経済 現代の経済と市場／市場経済における金融の働き／財政の役割と持続可能な社会保障制度

第4章 職業生活 働くことの意義と職業選択／労働者の権利と雇用・労働問題

第5章 国際社会 国際社会のルールとしくみ／国際社会と平和主義／国際平和への課題／グローバル化する国際経済

第3部では、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりをしない、公共の精神をもつた自立した主体になることをめざし、現代の諸課題を探究する学習活動に取り組みます。具体的には、自分の探究課題（問い合わせ）を決め、情報を収集し、読み取って整理したうえで自分の主張を決め、レポートとしてまとめ発表します。

これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。

3 学習の計画

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
4月	第1部 公共のとびら 第1章 青年期を生きる私たち	1 青年期における自己形成	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期の特徴やアイデンティティの確立などについて理解します。 ○青年期に生きる自己形成の課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期における心の動きや自分自身のとらえ方、人間関係などの特徴をふり返る活動をとおして、青年期の特徴や発達課題について理解します。
		2 キャリア開発と社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を生きるうえでの課題や、キャリア開発の意義などについて理解します。 ○キャリア開発や社会参画の視点から、シティズンシップの意義について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を生きていくうえで青年期に求められることについて幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について考察します。
4月～5月	第2章 他者とともに生きる人間としての考え方	3 個人として尊重しあう人間	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の幸福の追求と他者とのかかわりについて考え、幸福追求が個人の尊重に帰着することを理解します。 ○カントの「自律的な人格」やJ.S.ミルの「他者危害原理」について理解し、人間を個人として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幸福と個人の尊重に関する課題について、カントやJ.S.ミルの思想を手がかりに、具体的な場面を想像しながら、理解を深めます。 ○パートナリズムに関する身近な事例を取り上げて、自由と制約の関係について考えます。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動	
	4 公共的な空間をつくる人間	<ul style="list-style-type: none"> ○公共的な空間について理解するとともに、アーレントの「活動」やハーバーマスの「コミュニケーション的理性」の意義について理解します。 ○和辻哲郎の「間柄」について理解し、公共的な空間における意義について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「公共」ということばの日常的な用例をあげながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎のとらえた公共的な空間をいう存在としての人間のあり方について考察します。 	
	5 伝統・文化のなかで生きる人間	<ul style="list-style-type: none"> ○丸山真男の考え方などを手がかりに、伝統・文化がものの見方に影響をあたえていることに気づきます。 ○柳田国男の考え方などを手がかりに、日本の「公」と「私」についての伝統的なとらえ方について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常で使われていることばの意味や用法を取り上げ、それらが伝統や文化とかかわっていることに気づくとともに、どのような課題につながっているかを考察します。 	
5月	第3章 公共的な空間における倫理	6 功利主義と幸福の原理	<ul style="list-style-type: none"> ○行為選択の理由づけについて目的論と義務論の考え方があること、また、目的論にかかわって功利主義と徳倫理学の考え方を理解します。 ○先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○功利主義の快楽や幸福の考え方について、経済政策や福祉政策などの事例をもとに理解します。 ○人間にとての善さや幸福を人が徳を備えることに求める徳倫理学の考え方を理解します。 ○「トロッコ問題」について、選択・判断とその理由について話しあい、考察を深めます。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	7 義務論と公正の原理	<ul style="list-style-type: none"> ○義務論について、カントの「道徳法則」や「自律」の意味を中心に理解します。 ○不公正の是正について、ロールズの「公正としての正義」の考え方やセンの「潜在能力」の考え方を理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○義務にもとづいて行動すべき場面を想定しながら、カントの考え方を理解します。 ○不公正の是正に関するロールズやセンの考え方について、社会保障政策などの事例をもとに理解します。
	活用してみよう 生命倫理について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○生命科学の進歩にともない進展したエンハンスマント技術とその倫理的課題について理解します。 ○エンハンスマントにかかる倫理的課題について、功利主義と義務論の考え方を手がかりに考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エンハンスマントにどのような倫理的課題があるか、具体例をもとに理解します。 ○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスマントの是非について意見を交換し、考察します。
	活用してみよう 環境倫理について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題について、環境保護と開発のジレンマの観点から理解します。 ○環境保護と開発にかかる倫理的課題について、功利主義と義務論の考え方を手がかりに考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境保護と開発のジレンマについて、具体例をもとに理解します。 ○環境保護と開発にかかる倫理的課題について、功利主義と義務論の考え方を手がかりに意見を交換し、考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
5 月 ～ 6 月	第4章 公共的な空間における基本的原理	8 公共的な空間における協働	<ul style="list-style-type: none"> ○社会において利害調整が必要であることや、協働の利益をそこなう「囚人のジレンマ」を回避することが必要であることを理解します。 ○利害調整の方法としての市場の働きと国家の役割について理解するとともに、それぞれの課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「囚人のジレンマ」について理解するとともに、これを回避するために必要なことを考えます。 ○市場による財やサービスの配分が社会の利害調整の役割を果たしていることに気づきます。 ○国家による調整は、立憲主義のもとで民主主義によって行われていることを理解します。
	9 民主主義の原理		<ul style="list-style-type: none"> ○政治の方法である民主主義について、国民主権の観点から理解します。 ○民主主義における多数決の意義と課題、熟議の意義を理解するとともに、間接民主制と直接民主制を組みあわせる意義について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義の手続きや方法の意義について具体例をもとに理解するとともに、その課題について考えます。 ○多数決の意義と限界、多数決が有用である場合と適当でない場合などについて、具体的な場面をあげながら考えます。
	10 立憲主義の原理		<ul style="list-style-type: none"> ○法の支配や立憲主義の成立と意義などについて、イギリスやフランスの市民革命と関連づけて理解します。 ○民主主義における憲法の役割について、違憲審査や憲法改正手続きに着目して考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法の支配や立憲主義の意義について、中学校社会科での学習もふまえて、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
6 月 ～ 7 月	11 人権保障の原理	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的人権の意味や、自由権から社会権、「新しい人権」にいたる人権保障の歴史的発展を理解します。 ○人権保障の広がりにともない、人種差別・女性差別・障がい者差別の撤廃や、子どもの権利の確立などの取り組みが進められてきたことを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解するとともに、これらが歴史の中で発展し今日にいたったことを理解します。 ○人権保障が国際的に広がり、各国の国内法に反映されていることに気づきます。
	12 日本国憲法の理念	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法の三つの基本原理について、それぞれの具体的な内容を理解します。 ○日本国憲法における立憲主義と権力分立の意義や、最高法規としての憲法のあり方などについて理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的人権の尊重について、教科書 48 ページ以降の「ステップアップ政経」の記述と関連づけながら理解します。 ○立憲主義や権力分立の意義について、日本国憲法の規定をもとに確認します。
第 2 部 自立した主体として社会に参画する私たち 第 1 章 民主政治と私たち テーマ 1 民主政治と政治参加	追究しよう 日本に国民投票制度を導入すべきか？	<ul style="list-style-type: none"> ○民意と政治のギャップについて、世論調査などをもとに理解します。 ○国民投票のメリットとデメリットについて、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や地方の政治に民意を反映させる制度について、中学校社会科での学習もふまえて理解します。 ○選挙と国民投票の二つの方法について、民意を反映させる点でどのような特徴や課題があるかを考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	13 私たちの民主政治	<ul style="list-style-type: none"> ○身近に存在する政治に気づくとともに、民主主義にかかわる制度や活動について、実際の事象と関連づけて理解します。 ○現代の民主主義の課題について、20世紀の歴史をふまえて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○政治の意義や働き、民主主義のさまざまな形について理解するとともに、現代の民主主義の課題について考察します。
	14 地方自治のしくみと役割	<ul style="list-style-type: none"> ○地方自治の本旨としくみなどについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○地方財政のしくみと課題、住民参加の意義について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地方自治の本旨について確認するとともに、地方自治のしくみについて、国の政治と比較して理解します。 ○地方財政の現状と課題について、具体例をもとに考察します。
	15 国会のしくみと役割	<ul style="list-style-type: none"> ○三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○国会における実際の政治の現状と課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三権分立や国会の組織と権限について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。 ○国会の果たしている役割について、具体例をもとに理解します。
	16 内閣のしくみと役割	<ul style="list-style-type: none"> ○内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内閣と国会の関係について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。 ○内閣の役割と行政組織、行政権の役割の拡大とともになう諸課題と対応について、実際の事象と関連づけて理解し、考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	17 政治参加と選挙	<ul style="list-style-type: none"> ○政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○有権者の意思をよりよく反映するという観点から、日本の選挙制度について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選挙の原則の重要性を確認するとともに、日本の選挙制度について、近年の事例をもとに具体的に理解します。 ○18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義について考察します。
	18 政党と利益集団	<ul style="list-style-type: none"> ○民主政治における政党、利益集団、NPOの役割などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○政治資金にかかわる課題について、具体例をもとに考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○政党の役割について、政党の政権公約、政党間の議論などを参考にして考察します。 ○政治資金規正の重要性について、政治資金に関連する報道などを参照して理解します。
	19 メディアと世論	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○世論形成におよぼすメディアの役割や、正しい情報にもとづく合理的な判断の重要性について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義における世論の重要性について、メディアが取り上げる論点の比較などをとおして理解します。 ○インターネット時代の世論形成の課題や、メディア・リテラシーの重要性について考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
7 月 ～ 9 月	第2章 法の働きと私たち テーマ2 法や規範の意義と役割	追究しよう 「歩きスマホ」を法律で規制して罰則を設けるべきか？	<ul style="list-style-type: none"> ○「歩きスマホ」に関する法規制の事例や海外の事例について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○「歩きスマホ」に罰則を設けることの是非について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。
	20 法と社会規範の役割		<ul style="list-style-type: none"> ○社会規範としての道徳と法の違いなどについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○法の機能や分類について、具体的な法をもとに理解します。
	21 法の成立と適用		<ul style="list-style-type: none"> ○法を制定する際にふまえるべき条件、法の適用と解釈などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○民事裁判と刑事裁判の手続きの特色について、両者を比較して考察します。
テーマ3 市民生活と私法	追究しよう 転売仲介サイトで購入した不正転売チケットは、契約を取り消せるか？		<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットでのチケット転売に関するトラブルについて、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○転売仲介サイトで不正転売チケットを購入した場合の対処について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	22 私法の原則	<ul style="list-style-type: none"> ○私法の三つの原則、契約における意思能力および行為能力、未成年者の契約に関する原則、故意や過失による不法行為への責任などについて、実際の事象と関連させて理解します。 ○私法の三つの原則が公共の福祉や公序良俗の点から制限されることについて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○私法の三つの原則や過失責任の原則について、身の回りの具体例をもとに考察します。 ○日本国憲法や民法の関連する規定を参照しながら考察することで、法令の条文に親します。
	23 多様な契約	<ul style="list-style-type: none"> ○契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○契約の種類とその特色、契約自由の原則の修正が必要な理由について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○売買契約、賃貸借契約、労働契約、消費貸借契約などについて、具体例をもとに理解します。 ○契約自由の原則の意義と、その修正が必要な場合について考察します。
	24 消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会の形成などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○消費者法制が消費者の権利の尊重および自立支援をめざしていることについて、具体例をもとに考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者契約や消費者法制、消費者支援機関の役割について、消費者問題の具体例をもとに理解します。 ○消費者市民社会の形成に向けて身近な生活でできることを考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
テーマ4 国民の司法参加	追究しよう 日本は死刑制度を廃止すべきか?	<ul style="list-style-type: none"> ○死刑制度についての国民の意識、存廃の論拠、世界における死刑制度について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○死刑制度の是非について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○死刑制度の是非について、二つの着眼点を手がかりに、その理由も含めて議論します。 ○将来裁判員になる可能性をふまえて、死刑制度について自分事として考察します。
	25 司法のしくみと役割	<ul style="list-style-type: none"> ○司法権の独立の意義、三審制などの裁判制度のしくみ、違憲審査権などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○司法権の独立や三審制の意義、違憲審査権と人権保障とのかかわりについて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○司法権の独立や三審制、国民審査などについて、日本国憲法の規定を参考して考察します。 ○違憲審査権の意義について、違憲判決の事例をもとに理解します。
	26 刑事司法と司法参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> ○刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○刑事司法の課題や、司法への民意の反映の意義と課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○刑事手続きが法令にのっとって進められることや、被疑者や被告人の権利保障について理解します。 ○刑事司法の課題や、司法への民意の反映について、関連する報道などをもとに考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動	
9月 11月	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ5 現代の経済と市場	追究しよう 最低賃金の引き上げは経済にどのような影響をあたえるか?	○最低賃金額の都道府県ごとの状況や引き上げの状況、国際比較を参考に、最低賃金制度について理解します。 ○最低賃金額引き上げの影響について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。	○政府が最低賃金を決め、使用者にそれ以上の賃金の支払いを義務づけることの意義について理解します。 ○最低賃金額の引き上げが経済や社会にどのような影響をおよぼすのか、多面的・多角的に考察します。
	27 私たちと経済		○経済活動の意義、経済主体と経済循環、経済活動のグローバル化などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○家計・企業・政府の相互関係と経済循環について、具体例をもとに考察します。	○希少性、機会費用、トレードオフについて理解し、経済活動の意義について考察します。 ○経済循環について、家計・企業・政府の相互関係を整理し、説明します。
	28 現代の企業		○企業の種類や活動、株式会社のしくみ、企業の社会的責任などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○株式会社が発達した理由や、企業の社会的責任が求められる背景について考察します。	○現代の企業について、企業の種類や活動、株式会社のしくみに着目して理解します。 ○企業の社会的責任について、具体例を調べ、関心を高めます。
	29 市場経済のしくみ		○市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○市場メカニズムの意義や限界と、政府の役割が求められることとの関係について考察します。	○価格の働きについて、需要曲線・供給曲線を利用して理解します。 ○外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについて、具体例をもとに理解します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	30 国民所得と経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ○経済活動の大きさを示すさまざまな指標、経済成長とその要因、景気変動と物価などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○景気変動や物価の変動が人々の生活におよぼす影響について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済の大きさを示す指標の種類や、それぞれの指標の意味について理解します。 ○インフレーションやデフレーションが人々の生活にあたえる影響について、具体例をもとに考察します。
テーマ6 市場経済における金融の働き	追究しよう 起業家はどのように資金調達をすればよいか？	<ul style="list-style-type: none"> ○起業家の資金調達の方法、日本のスタートアップの動向について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○起業家が効果的な資金調達を行うために必要なことについて、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○起業家は資金調達に際して直接金融と間接金融のどちらの方法を選ぶのか、その理由も含めて考察します。 ○起業家の資金調達について、起業家と資金提供者の双方の立場から考察します。
	31 金融のしくみと働き	<ul style="list-style-type: none"> ○貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融市場と金利などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○金融が現在の経済において果たす役割について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○銀行や証券会社など具体的な金融機関の業務を調べることをとおして、金融のしくみについて理解します。 ○金融や金利の果たす役割について、家計や企業の立場から考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	32 中央銀行の役割と金融環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○中央銀行の役割と金融政策などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○金融政策の近年の動向、金融の自由化および金融商品の多様化の動きとその課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○金融政策について、市場における通貨量の調整に着目して理解します。 ○金融の自由化や金融商品の多様化が、消費者にどのような利便性と課題をもたらしているか、具体的に考えます。
テーマ7 財政の役割と持続可能な社会保障制度	追究しよう 持続可能な財政を実現するためには？	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の財政の状況について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○財政の課題を解決し持続可能な財政を実現するための取り組みについて、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国債に依存する財政の現状は、結果として将来世代の負担となる点を理解します。 ○歳出の削減、歳入の増加について、視野を広げて多面的・多角的に考察します。
	33 財政の働き	<ul style="list-style-type: none"> ○財政の機能と財政政策、財政のしくみと租税法律主義などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○財政を通じて経済政策や福祉政策などが行われていることを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○所得の再分配や財政政策について、具体例をもとに理解します。 ○財政の歳入構造と歳出構造の変化の背景について考察し、財政の働きについて理解します。
	34 財政の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○租税の種類と課税の原則、国債の役割、財政問題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○財政問題の解決の方向性について、資料を手がかりに考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○租税の種類について、具体例をもとに理解します。 ○財政問題の解決の方向性について、「追究しよう」の学習と関連づけて考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	35 社会保障の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○社会保障制度の意義について、多面的・多角的に考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の社会保障の四つの柱について、さまざまな生活場面を想定して具体的に理解します。 ○日本の社会保障制度には保険によるものや公費によるものなどがあることを理解します。
	36 社会保障の課題とこれから	<ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化の進展、社会保障制度の現状と課題、福祉社会の実現に向かって課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○今後の社会保障制度のあり方について、諸外国の事例を参考に考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化・少子化がもたらす影響について、さまざまな視点から考察します。 ○今後の社会保障制度の方向性について、低福祉・低負担、高福祉・高負担などの観点をふまえて考察します。
1 1月 ～ 12月	第4章 私たちの職業生活 テーマ8 働くことの意義と職業選択	<ul style="list-style-type: none"> ○AI が労働や雇用に与える影響について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○AI 時代の業務や仕事の変化とそれへの対応について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○AI 活用による業務や仕事の変化について、実際の事例を調べるとともに、実生活とのかかわりに気づきます。 ○将来どのような仕事が求められ、そのためにはどのような能力が求められるようになるのか、意見を交換します。
	37 働くということ	<ul style="list-style-type: none"> ○働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○産業社会の変化とともに職業や労働の変化について、その課題も含めて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業について、社会生活における意義や役割、産業とのかかわりなどの視点から理解します。 ○労働市場における労働力の需給調整について、有効求人倍率などを参考に理解します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	38 多様な職業選択	<ul style="list-style-type: none"> ○職業選択のポイント、キャリア選択の多様化、キャリア形成の課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○これからの中長期的な職業選択とキャリア形成の課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の職業観や、自分が興味をもっている職業が必要とする能力について考察します。 ○自分がこれまで形成してきたキャリアが、今後の職業とどのように結びつか考察します。
テーマ9 労働者の権利と雇用・労働問題	追究しよう 「働きがいのある人間らしい仕事」を実現するには?	<ul style="list-style-type: none"> ○長時間労働やハラスメント、労働生産性の課題について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○働きがいのある労働環境を実現する方策について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長時間労働やハラスメントなどについては、関連する報道を調べ、具体的に理解します。 ○働きがいのある労働環境を実現するためには何が必要か、意見を交換します。
	39 労働者の権利	<ul style="list-style-type: none"> ○資本主義経済における労働、労働者の権利と労働三法などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○労働者の権利保障の必要性について、労働契約の特性をふまえて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○労働三法などの法律がどのようにして労働者の権利を保護しているか、具体例とともに理解します。 ○労働基準法に定める労働条件の最低基準の内容を調べて、具体的に理解します。
	40 現代の雇用・労働問題	<ul style="list-style-type: none"> ○雇用環境の変化、現代の労働問題、働きやすい労働環境の実現などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○仕事と家庭生活の両立、男女格差の解消、安定した雇用などに関する課題とその解決について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の労働問題について、関連する報道などをもとに、具体的に理解します。 ○働きやすい労働環境の実現について、具体例をもとに考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
1 2月 ～ 2月	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	追究しよう 漁業資源の国際的な管理のためにどのようなルールをつくるか？	○漁業をめぐる国際社会の課題について、資料を手がかりに確認し、理解します。 ○漁業資源の国際的な管理のあり方について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。	○漁業資源の管理・維持について、「共有地の悲劇」の考え方をふまえて考察します。 ○漁業資源の国際的な管理のあり方についての考察をとおして、国際法の役割や国際協力の難しさに気づきます。
	テーマ10 国際社会のルールとしくみ	41 国際社会の成り立ち	○国際社会の成立と特色、国際法の意義、国際社会の変容などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○国家間で問題が生じる背景や、外交や国際法の意義について、多面的・多角的に考察します。	○国際法の特色について、国内法と比較しながら理解します。 ○国際司法裁判所や国際刑事裁判所の役割について、それぞれで実際に扱われた事案を調べ、理解します。
		42 国際連合の役割	○集団安全保障としての国際連合の成立としくみ、国際連合の役割と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○国際連合が安全保障に果たす役割と課題について考察します。	○国際連合の安全保障の取り組みについて、国際紛争の例を調べ、理解します。 ○国連機関の活動を調べ、それが世界の人々の生活と密接にかかわっていることに気づきます。
	テーマ11 国際社会と平和主義	追究しよう 日本は核兵器禁止条約に参加すべきか？	○核兵器をめぐる世界の動きについて、核拡散の現状や核兵器禁止条約の採択などを中心に理解します。 ○日本の核兵器禁止条約参加の是非について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。	○国家間の相互理解や信頼を醸成するためには、国連などを通じた外交努力が重要であることに気づきます。 ○「安全保障のジレンマ」について、すでに学習した「囚人のジレンマ」を参考に理解します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
テーマ 12 国際平和への課題	43 日本の平和主義と冷戦	<ul style="list-style-type: none"> ○平和主義と日本国憲法第9条、自衛隊と日米安全保障条約、戦後日本の防衛政策などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○日本の防衛政策の変遷について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の平和主義と安全保障、日米関係の関係について理解します。 ○日本の防衛政策の変遷について、第二次世界大戦後の国際政治の動きと関連づけて考察します。
	44 冷戦後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦後の世界と日本の安全保障政策、自衛隊の海外派遣などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○日本の安全保障の背景にある国際関係の変化や、今後の安全保障の課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の近年の安全保障政策について、関連する報道などをもとに理解します。 ○自衛隊の役割の変化などについて、日本政府の憲法第9条解釈の変化をもとに理解します。
	追究しよう 人権侵害が起こっている国に対して国際社会は介入すべきか？	<ul style="list-style-type: none"> ○国内紛争に他国が介入することの課題について、ルワンダ内戦やコソボ紛争を例に理解します。 ○人権保護のための他国や国際機関による武力介入について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国内紛争に対して他国や国際機関がどのように対処しているのか、具体例をもとに理解します。 ○他国による武力介入が新たな混乱を招く可能性があることに気づきます。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	45 現代の紛争とその影響	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の紛争とその要因、紛争解決に向けた取り組み、難民問題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○紛争や難民問題の解決に向けて、国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の紛争の背景や要因、関係する諸国の動向、国際機関の対応などについて、関連する報道などをもとに理解します。
	46 平和な国際社会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○平和の意味、外交を通じた平和の実現、日本の国際貢献について、実際の事象と関連づけて理解します。 ○平和憲法をもつ日本は国際平和に向けて何をなすべきか、多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際貢献の意義について、日本が行っている国際貢献の事例を調べ、理解します。 ○日本の今後の国際貢献のあり方について、これまでの学習をふまえて考察します。
テーマ 13 グローバル化する国際経済	追究しよう 世界経済の分断化にどのように向きあうか？	<ul style="list-style-type: none"> ○世界経済の分断化について、ロシアのウクライナ侵攻、アメリカと中国の貿易をめぐる対立、日本の経済安全保障の動きを手がかりに理解します。 ○世界経済の分断化の影響やそれへの対応について、二つの着眼点を手がかりに多面的・多角的に考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済安全保障の考え方や政策の背景にはどのような事情があるのか、また国民の生活とどのようななかかわりがあるのかを考察します。 ○今後の世界経済はどうあるべきか、また、日本はどのように行動すべきか、世界経済の現状をふまえて考察します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	47 貿易のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ○自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進、国際収支の意味などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○リカードの比較生産費説の概要、国際収支からわかる経済状況について、具体的な事例や統計をもとに理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自由貿易と保護貿易のメリットとデメリットについて、比較生産費説を参照して考察します。 ○国際収支について、どのような取り引きがどの項目に計上されるのか、また、黒字と赤字は何を意味するのかを考察します。
	48 國際金融のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> ○為替のしくみと外国為替市場、國際通貨体制の変容、国際金融の動向などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○為替レートの変動が貿易や金融、人々の生活におよぼす影響について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○為替レートの変動の背景や影響について、関連する報道などをもとに考察します。 ○貿易や資本移動の自由化によって、為替レートが不安定化し、企業の活動や生活に大きな影響をあたえていることについて理解します。
	49 グローバル化と今日の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の国際経済秩序、地域統合の歴史と現在、新興国の台頭などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○国際経済秩序や地域統合の背景には、経済だけでなく政治的な要因もあることを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際経済秩序について、国際協調の動きとともに保護主義・一国主義の動きがあることを事例から理解します。 ○FTAやEPAについて、日本の取り組みの事例をもとに理解します。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動	
	50 国際経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ○南北問題とその背景、人口・食料問題、格差是正の取り組みなどについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ○南北問題や人口・食料問題の解決に向けた取り組みについて考察し、議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○南北問題の背景について、植民地支配とその後の国際分業構造、一次産品の価格などの視点から理解します。 ○格差是正に向けた取り組みについて、SDGs（教科書 205 ページ）も参照して、具体的に理解します。 	
2月～3月	第3部 持続可能な社会づくりに参画するためには	<ul style="list-style-type: none"> 1 探究のイメージをつかもう 2 探究のプロセス 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題について、探究のための課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりします。 ○探究の結果や自らの主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題設定の理由および課題解決の仮説や見通しを吟味します。 ○課題解決に必要な情報の収集や整理の仕方について、研究のアウトラインや構成をふまえて見通しを立てます。 ○明確になったこと、明確にならなかつたことの両方を含めて、研究の成果をまとめます。

4 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認し、次の学習につなげるためになされるものです。このことをしっかりと確認し、不十分な点があれば関連する学習事項の見直しを行い、学習の改善につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

(2) 評価の観点

評価にあたっては、学習で身につける力を次の三つの観点から把握します。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
-------	--

思考・判断・表現	○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権をなう公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、みずから学習を調整しようとしている。

(3) 評価の時期と方法

- ア 各学期の定期テストでは、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。
- イ 現代の諸課題を探究する際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究、まとめの学習を行う際には、教科書の「第3部 持続可能な社会づくりに参画するために」などを参考にしてください。
- ウ 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を、主体的に学習に取り組み態度の評価とします。
- エ 自己評価やふり返りシートを参考にします。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた観点別評価に関する情報を総合的に判断して行います。

【参考】授業の進め方と学習にあたって

(1) 授業の進め方

- ア 現代の諸課題をとらえる視点や枠組み、基本的な概念の理解をはかります。
- イ 一斉授業、グループ学習、討論や発表などの学習活動を行い、ものごとを多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養います。
- ウ 資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究の方法を身につけます。

(2) 学習にあたっての留意点

- ア 日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心をもち、調べたり、論点を見いだしたりするように努めましょう。
- イ 客観的な資料にもとづいて、現代の諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身につけましょう。